



日本語教師を目指す学生のための日本語教壇実習 -Teaching Assistant Program for Japanese students-

—実習・交流・学ぶタイ・スィーパトゥム大学での研修—

タイ王国バンコク都にある私立スィーパトゥム大学では、日本語の授業のアシスタントティーチャーを募集しています。日本語教育について勉強している方で、海外で日本語を教えたいという方にとって、海外での教壇経験の場となると思われます。

研修先	タイ・スィーパトゥム大学 バンケン本校 スィーパトゥム国際言語文化研究所 Sripatum University Bangkhen Campus [SIILC] Sripatum International Institute of Languages and Cultures [SIILC] 61 Phaholyothin Rd. Senanikhom Chatujak Bangkok 10900, Thailand Tel +66-2-579-1111 Ext. 1585 or 1586
研修期間	8月下旬～12月上旬 1月上旬～5月上旬 上記の期間から日程を選ぶ（2週間・3週間・4週間）
募集人数	最小催行人数1名より
対象・参加資格	海外での日本語教師を目指している方 日本語教育・教授法について勉強したことがある方
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ● 学部のスタッフを紹介、キャンパスツアー、 ● 日本語の授業見学、学生との顔合わせ ● 打合せ（プログラムの予定、生活面での注意事項） 2. ティーチングアシスタントの内容 <ul style="list-style-type: none"> ● 担当科目の打合せ ● 授業の準備、教案の作成 ● 科目担当者に教案を提出、フィードバックをもらう ● 教案に沿った教材作り、模擬授業 ● ティーチングアシスタントとして授業をする ● 授業後の反省会 3. 文化交流、ランゲージパートナー <ul style="list-style-type: none"> ● 日本での生活、大学について（プレゼンテーション） ● おにぎりパーティー、折り紙、盆踊り等（学生の希望を考慮） ● キャンパス内で学生との交流 4. 他の日本語教育機関、日本語教師との交流 <ul style="list-style-type: none"> ● タイの日本語教師が集まるセミナーへの参加 ● 中等教育機関で日本語を学ぶ学生との交流 <p>● 1つの授業(110分)を前半と後半に分け、前半に文法説明を行ったうえで、</p>

	後半をティーチングアシスタントに担当してもらう。 ● 1週間に2コマ程度の授業を担当する。(参加人数、開講科目により変動) ● ティーチングアシスタントは直接法で教えてほしい。媒介語(英語、タイ語)は必要としない。
参加費用	指導料 4,500 バーツ 教育実習料 3,500 バーツ 資料・コピー代 2,000 バーツ (合計 10,000 バーツ)
滞在方法・費用	大学近くのサービスアパートメントを利用する 1泊 800 バーツ、1ヶ月 20,000 バーツ (1室2名まで可) ■サービスアパートメントに含まれるサービス 水道代・電気代・飲料水1日2本・インターネット・毎日の部屋の掃除 利用予定「SENA HOUSE Phahonyothin 30」 Web Page http://www.sena-house.com/th/Sena-House-พหุโยธิน-30/1/home.html
応募方法	必要書類を1ヶ月前までに本学まで郵送する。 A) 作文(プログラムで自分がしたいこと、タイの学生に何ができるか) B) 履歴書(写真添付)、参加理由書(A4用紙で1-2枚程度) C) 推薦状 D) 在籍証明書 E) 日本語教育関係履修証明書 * 参加理由書には参加期間、目的、抱負を明記 * A) は日本語で(800字から1200字) * B) ~ E) の書類はすべて英文、書式は自由

どんな実習をしますか???

1. オリエンテーション

大学に集合して、これからの日程やタイでの生活の注意などを説明します。学生さんの日本語教師に対する思いなどを聞きます。



2. 授業見学



スィーパトゥム大学の学生の様子を知るために、授業を見学してもらいます。学生の行動、教師の行動、それぞれを観察してもらいます。それから、簡単な日本語で学生と話してみます。学生たちがわかる日本語だけで話すのは 意外と難しいです。

3. 授業の打ち合わせ、模擬授業、反省会等

授業の準備に取りかかります。見ていると簡単そうなフラッシュカードや絵カードなどの教具の取り扱いも実際使ってみると、難しいです。じっくり教案に取り組み、フィードバックをもらってから、実際の授業に挑みます。



4. 実際の授業での教壇実習

授業は 1 コマ 110 分です。前半 60 分は担当教員がタイ語を使って文法説明、練習を行います。皆さんは 後半 50 分を使って、今日習った文法の応用練習、会話練習と漢字の練習を直接法で教えてもらいます。初級前半の知識しかない学生ですから、教室の中で使える言葉を限られています。絵カードやフラッシュカードやレアリア等を使って、皆さんが学生に伝えたいことを示していきます。クラスサイズが大きいので、はっきりと大きい声で話さなければなりません。



5. 文化紹介・ランゲージパートナー

教室だけでは学生との距離が縮まりません。タイの学生と話す機会やタイの先生と話す機会も作るようにしています。勉強を通して、色々な活動を通して、タイの文化を見て、感じてほしいと思います。タイのテレビ番組等で日本について



での放送がたくさんあります。



6. 課外活動・その他

タイで行われている日本語教育活動に参加したり、他の教育機関を見学したり、タイ国日本語教育研究会(<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/8369/>)のセミナーに参加したりします。また、他教育機関で働く先生にお越しいただき他機関での日本語教育の状況やタイでの就職状況も聞ける機会を設けています。



これまでの実習の流れはこのように実施してきました。学生さんの実習参加の目的や要望にあわせて、プログラムの内容も更新していきたいと思えます。また、希望に応じてプログラムの内容を変更することもできます。どうぞお問い合わせください。

(作成日 2013年4月13日編)